

第2部

岩手のくらし

第1章 健康・余暇

～健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を
楽しむことができる岩手～

2 必要に応じた医療を受けることができる体制

本県の看護師及び准看護師数は全国平均を上回る

■ 病気やケガの際に大病院ではなく診療所（開業医）で受診する人の割合は約7割

令和4年（2022年）県民生活基本調査によると、病気やケガなどで医療機関を受診するときに「どちらかと言えば診療所（開業医）に行っている」人の割合は71.8%で、「どちらかと言えば医師や診療科が多い大きな病院に行っている」人の24.2%を上回っています（図1）。

また、令和5年（2023年）県の施策に関する県民意識調査によると、大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について、「知っている」人の割合は56.8%と「知らない」人の38.4%を上回っています（図2）。

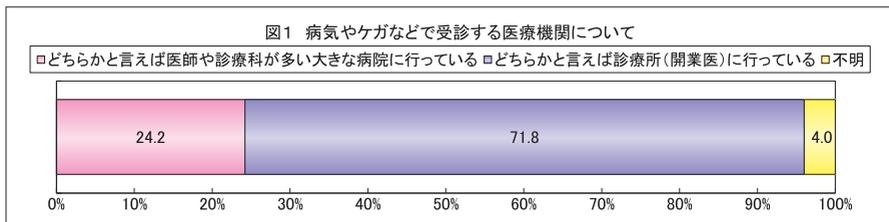
■ 本県の看護師及び准看護師数は全国平均を上回る

令和2年（2020年）の本県の医療施設に従事する医師数は、人口10万人当たりで207人と全国平均の257人を下回っており、全国順位は42位となっています（図3）。

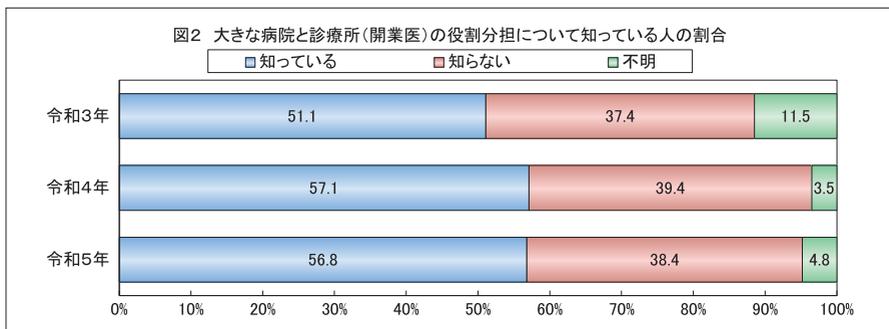
また、令和4年（2022年）の看護師及び准看護師数は、人口10万人当たりで1,428人と全国平均の1,253人を上回っており、全国順位は24位となっています（図4）。

■ 県内看護師等学校養成所卒業者の県内就職率は6割台

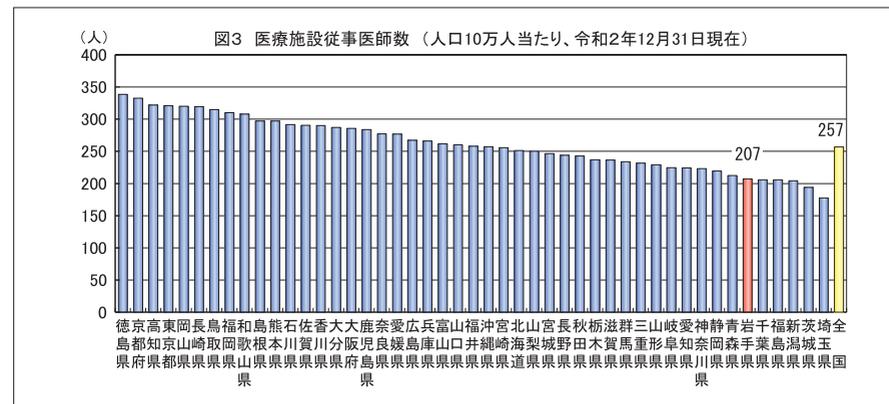
令和4年度（2022年度）に県内の看護師等学校養成所を卒業し、看護師又は准看護師として就業した者のうち、県内に就業した者の割合（県内就業率）は、63.9%と全国平均の74.4%を下回っており、全国順位は40位となっています（図5）。



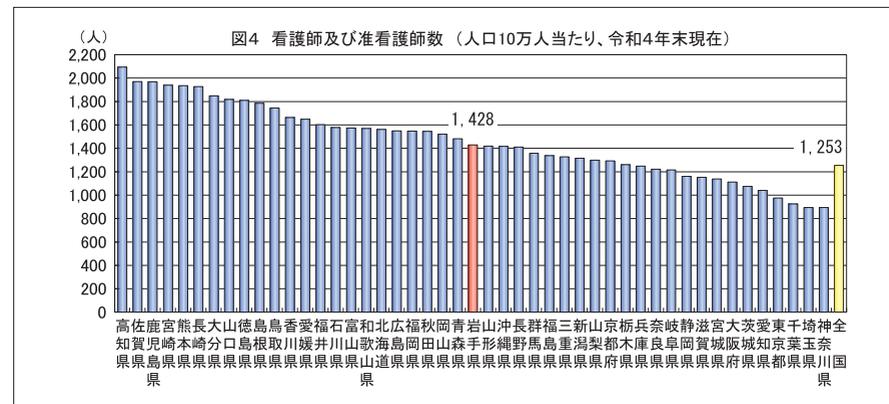
資料：県ふるさと振興部「令和4年県民生活基本調査」



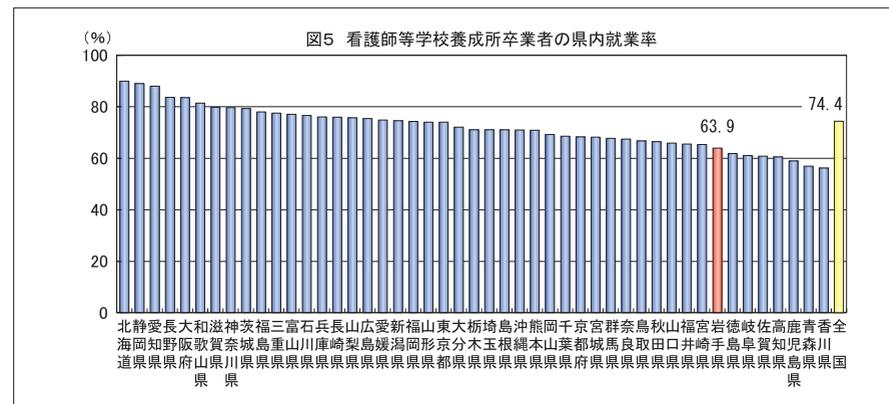
資料：偶数年 県ふるさと振興部「県民生活基本調査」
奇数年 県ふるさと振興部「県の施策に関する県民意識調査」



資料：厚生労働省「令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計」



資料：厚生労働省「令和4年度衛生行政報告例」



資料：厚生労働省「令和5年度看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

3 介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境

認知症サポーター数は全国を上回る

■ 住み慣れた地域で安心して生活できる環境についての重要度は県全域で高い

令和5年（2023年）県の施策に関する県民意識調査によると、「介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と意識している人の割合は、県計で82.8%となっています。広域振興圏別では、重要な割合が最も高いのが県南で84.0%、最も低いのが県北で80.8%となっています（図1）。また、満足（「満足」＋「やや満足」）と意識している人の割合は、県計で23.5%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の24.4%を下回っています。広域振興圏別では、満足の割合が最も高いのが県北で26.8%となっています（図2）。

■ 高齢者等のための設備のある住宅の割合は全国を上回る

平成30年（2018年）住宅・土地統計調査によると、本県の高齢者等のための設備のある住宅の割合は54.3%と全国平均の50.9%を上回っており、全国順位は14位となっています（図3）。また、本県の高齢者等のための設備状況別住宅の割合は、「道路から玄関まで車いすで通行可能」以外全国平均を上回っています（図4）。

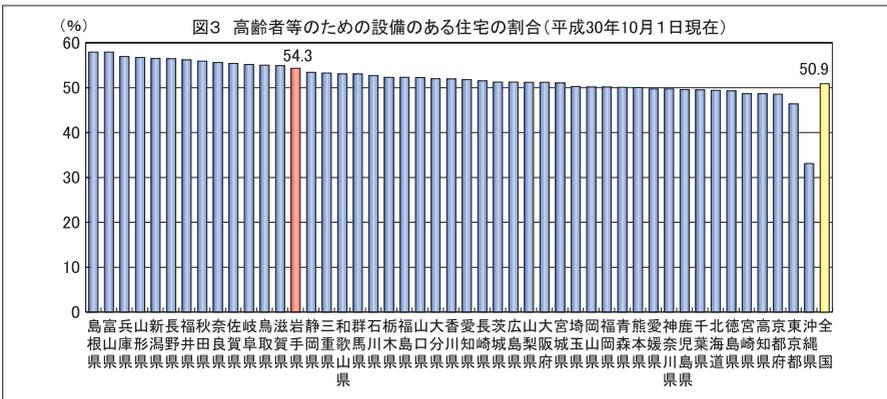
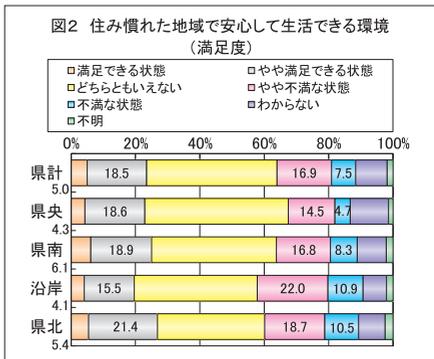
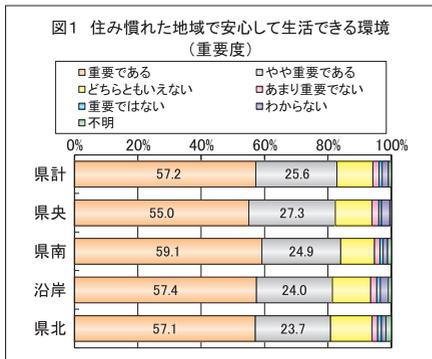
■ 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の登録者数は着実に増加

本県の令和5年（2023年）3月末現在の社会福祉士（注1）の登録者数は前年より157人増え、2,729人となりました。また、介護福祉士（注2）、精神保健福祉士（注3）の登録者数はそれぞれ22,395人、1,014人となり、平成26年（2014年）からの推移をみると、いずれも着実に増加しています（図5）。

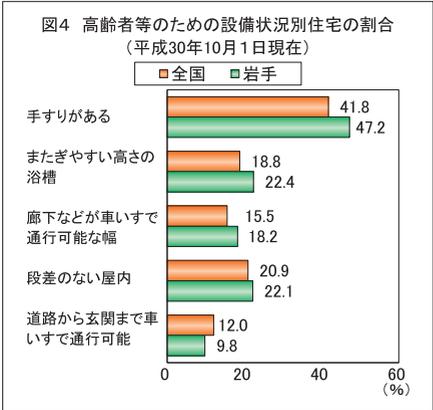
- （注1）社会福祉士：身体的・精神的な障がいなどのため日常生活に支障がある人に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する資格者
- （注2）介護福祉士：身体的・精神的な障がいなどのため日常生活に支障がある人に介護を行い、介護に関する指導を行う資格者
- （注3）精神保健福祉士：精神障がい者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行う資格者

■ 認知症サポーター数は全国を上回る

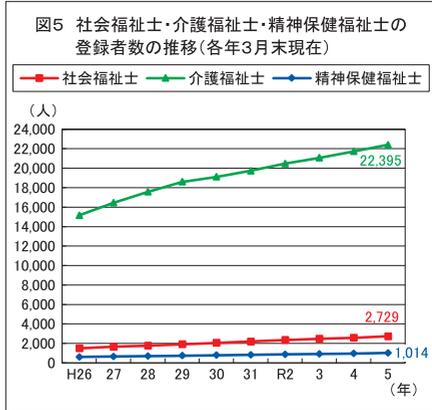
本県の令和5年（2023年）9月末現在の人口千人当たりの認知症サポーター（注）数は174.3人と全国平均の109.7人を上回っており、全国順位は5位となっています（図6）。
（注）認知症サポーター：特別な職業や資格ではなく「認知症サポーター養成講座」を受けて、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする支援者



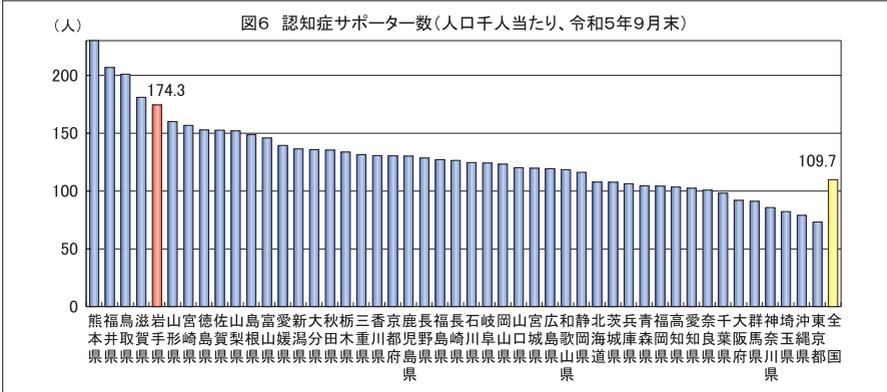
資料：総務省「平成30年住宅・土地統計調査」



資料：総務省「平成30年住宅・土地統計調査」



資料：（公財）社会福祉振興・試験センター「社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の都道府県別登録者数」



資料：全国キャラバン・メイト連絡協議会「認知症サポーターの養成状況」

以上資料：県ふるさと振興部「令和5年県の施策に関する県民意識調査」

5 生涯を通じて学び続けられる場

生涯学習に取り組んでいる人の割合は4割台後半

■ 生涯学習に取り組んでいる人の割合は4割台後半

令和4年（2022年）県民生活基本調査によると、生涯学習に取り組んでいると回答した人の割合は、46.1%となっており、取り組んでいる（「週に数回程度」+「月に数回程度」+「年に数回程度」）と回答した人の取組内容は、「スポーツ・レクリエーションや健康の維持・増進」が65.0%と最も多く、次いで「家庭生活に役立つ技能」の59.1%となっています。

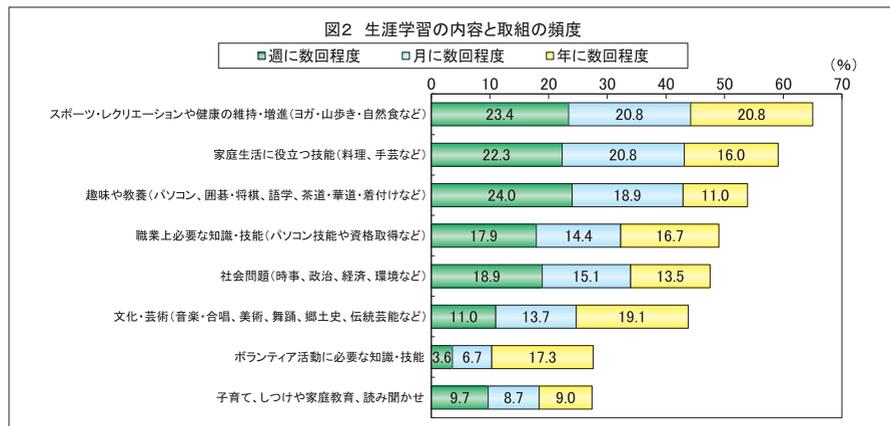
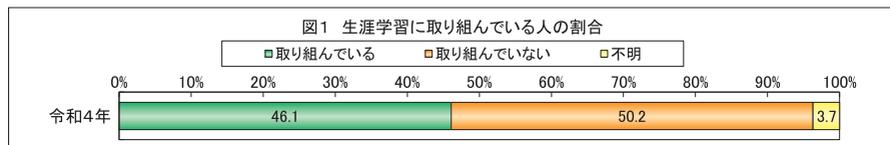
また、生涯学習で身に付けた知識・技能や経験をどのようなことに生かしているかについて、「自分の人生をより豊かにすること」が67.5%と最も多く、以下「健康の維持・増進」の53.3%、「家庭生活」の47.7%などとなっています。

一方、生涯学習に取り組んでいないと回答した人の割合は、50.2%となっており、理由としては、「仕事や家事が忙しくて取り組む時間がないから」が47.3%と最も多く、次いで「関心がないから」の31.1%となっています（図1、2、3、4）。

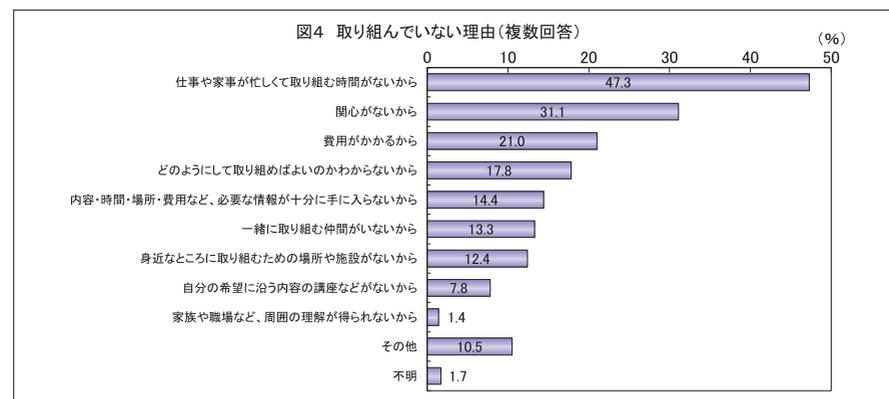
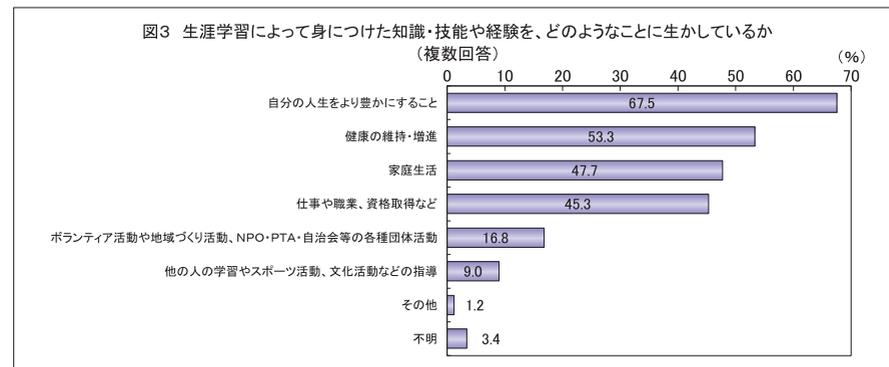
■ 学びたいときに学べる環境に対する満足度は県央で高い

令和5年（2023年）県の施策に関する県民意識調査によると、「学びたいと思った時に必要な情報が手に入り、自分に適した内容や方法で学ぶことができる環境であること」について、重要（「重要」+「やや重要」）と意識している人の割合は、県計で63.0%となっています（図5）。

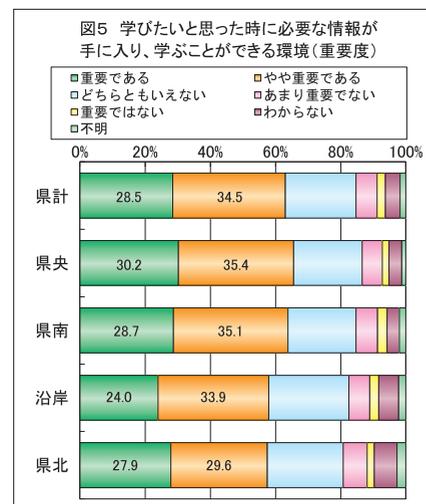
一方、満足（「満足」+「やや満足」）と意識している人の割合は、県計で19.5%となっており、特に県央では、満足の割合が20.8%と他の広域振興圏と比べて高くなっています（図6）。



以上資料：県ふるさと振興部「令和4年県民生活基本調査」



以上資料：県ふるさと振興部「令和4年県民生活基本調査」



以上資料：県ふるさと振興部「令和5年県の施策に関する県民意識調査」

